



平成29年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年7月27日

上場会社名 株式会社enish 上場取引所 東
 コード番号 3667 URL http://www.enish.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安徳 孝平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 高木 和成 TEL 03(6447)4020
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第2四半期の業績（平成29年1月1日～平成29年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第2四半期	1,937	△22.8	△432	-	△415	-	△479	-
28年12月期第2四半期	2,508	△12.9	△158	-	△166	-	△238	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第2四半期	△61.44	-
28年12月期第2四半期	△32.65	-

(注) 平成28年12月期第2四半期及び平成29年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期第2四半期	1,565	1,232	77.0	154.52
28年12月期	2,177	1,685	77.4	215.96

(参考) 自己資本 29年12月期第2四半期 1,205百万円 28年12月期 1,684百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
29年12月期	-	0.00	-	-	-
29年12月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

平成29年12月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

3. 平成29年12月期の業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

平成29年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算出ができないことから記載しておりません。なお、当該理由等につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期 2 Q	7,800,800株	28年12月期	7,800,800株
② 期末自己株式数	29年12月期 2 Q	-株	28年12月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期 2 Q	7,800,800株	28年12月期 2 Q	7,293,924株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、平成29年7月28日（金）に機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定です。

この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 継続企業の前提に関する重要事項等	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、企業収益の回復や個人消費の持ち直しの動きがみられ、緩やかな景気回復基調が継続しております。

当社の主な事業領域である、モバイルゲーム事業を取り巻く環境につきましては、引き続きスマートフォンの契約数は順調に推移しており、また国内モバイルゲーム市場についても成長率の鈍化はみられるものの、ネイティブアプリケーション（注）を中心に今後も拡大していく見通しであります。

このような事業環境の中、当社では当第2四半期累計期間においては、環境の変化に対応するため、ネイティブアプリケーションタイトルへ注力していく方針に伴い、ブラウザゲームの「プラチナ☆ガール」を株式会社ビジュアライズへ譲渡いたしました。既存タイトルに関しては、注力タイトルはゲーム内の施策を強化及び運営品質の改善を行い、引き続き売上収益に貢献しておりますが、タイトル譲渡の影響もあり売上高は減少いたしました。ネイティブアプリケーションタイトル「12オーディンズ」は、累計200万ダウンロードを突破し、大型IPとのコラボレーションの実施等による施策を行っております。また、OPD2C社（上海東方明珠迪爾希文化傳媒有限公司）と独占的ライセンス契約を締結し、中国にて配信することも決定いたしました。今後、中国・台湾・香港・マカオと海外展開も期待されます。

非ゲーム事業においては、平成29年4月に、人気占い師のイヴルルド遙華氏が全面監修する婚活アプリ「metune」をリリースいたしました。オンライン結婚・恋愛マッチングサービスの市場規模は年々増加しており、プロモーションを強化していくことで今後の収益寄与が期待されます。平成29年6月には、ヤフー株式会社が運営する「Yahoo!ゲーム」のスマートフォン向け人気ゲームアプリをWindows®パソコンで楽しむことができるPC用アプリケーション「Yahoo!ゲーム プレイヤー」が提供開始され、その開発を当社が担当しました。また、ファッションレンタルサービス「EDIST. CLOSET」は、人気スタイリストやアパレルとコラボレーションした旬のコーディネートセットが人気を獲得し、順調に会員数が増加しております。今後も仕事や家事・育児に忙しいすべての女性に、より豊かなライフスタイルを送るサポートができるよう、サービス提供を行ってまいります。

当事業年度においては、『櫻坂46』初となる公式ゲームアプリ「櫻のキセキ」のリリースを予定しており、引き続き安定した収益基盤の構築に努めてまいります。

なお、経営資源を集中する観点から開発を進めてまいりました女性向けタイトルを凍結し、当初想定していた収益と今後発生することが見込まれる収益に差異が生じたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、本社資産等の有形無形固定資産に係る減損損失を計上いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は1,937百万円（前年同四半期比22.8%の減少）、営業損失は432百万円、経常損失は415百万円、四半期純損失は479百万円となっております。

（注）ネイティブアプリケーションとは、特定のコンピューターの機種やOS上で直接実行可能なプログラムで構成されたアプリケーションソフトウェアのことをいいます。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて461百万円減少し、1,288百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少（前事業年度末比174百万円の減少）、売掛金の減少（前事業年度末比115百万円の減少）、流動資産のその他の減少（前事業年度末比171百万円の減少）によるものであります。固定資産につきましては、前事業年度末に比べて150百万円減少し、277百万円となりました。これは主に、本社資産等の固定資産に係る減損損失を計上したこと等による有形固定資産の減少（前事業年度末比131百万円の減少）及び無形固定資産の減少（前事業年度末比37百万円の減少）によるものであります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ612百万円減少し、1,565百万円となりました。

（負債）

当第2四半期会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べて147百万円減少し、280百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少（前事業年度末比100百万円の減少）、未払金の減少（前事業年度末比42百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては、前事業年度末に比べて10百万円減少し、52百万円となりました。これは主に、繰延税金負債の減少（前事業年度末比10百万円の減少）によるものであります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ158百万円減少し、333百万円となりました。

（純資産）

当第2四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて453百万円減少し、1,232百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少（前事業年度末比479百万円の減少）によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、604百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動により使用した資金は、343百万円となりました。これは主に、税引前四半期純損失488百万円の計上があった一方で、減損損失168百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動により獲得した資金は、268百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入105百万円、事業譲渡による収入219百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動により使用した資金は、98百万円となりました。これは主に、短期借入金金の減少100百万円があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期につきましては、引き続き既存ブラウザタイトルの売上減少の制御を行い、安定した収益基盤の構築を努めるとともに、クオリティの高い新規ネイティブアプリケーションの開発を行ってまいります。

従前、通期の業績予想を開示しておりましたが、モバイルゲーム市場を取り巻く環境の変化が激しく、当社の事業も短期間に大きく変動する可能性があること等から、信頼性の高い通期の業績予想数値を算出することが困難となっているため、決算業績及び事業の概況の速やかな開示に務め、業績予想につきましては開示を見合わせます。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において重要な営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第2四半期累計期間において、依然営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローが生じております。

以上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、①収益性が高く見込まれる新規タイトルの開発と運営、②プロダクトポートフォリオの見直し及び品質管理による収益力の強化、③資金調達や資金繰りの安定化に努めてまいります。これらの改善策を状況に応じて適切に推進していくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	878,660	704,154
売掛金	558,362	442,830
その他	313,046	141,341
流動資産合計	1,750,069	1,288,325
固定資産		
有形固定資産	131,212	—
無形固定資産	37,044	—
投資その他の資産		
敷金及び保証金	237,229	239,229
その他	90,090	90,090
貸倒引当金	△68,000	△52,000
投資その他の資産合計	259,319	277,319
固定資産合計	427,576	277,319
資産合計	2,177,646	1,565,644
負債の部		
流動負債		
買掛金	69,605	85,100
短期借入金	137,520	37,060
その他	221,498	158,750
流動負債合計	428,623	280,910
固定負債		
資産除去債務	49,199	49,346
繰延税金負債	10,690	—
その他	3,351	3,351
固定負債合計	63,242	52,698
負債合計	491,866	333,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,169,245	1,169,245
資本剰余金	1,168,245	1,168,245
利益剰余金	△652,828	△1,132,140
株主資本合計	1,684,662	1,205,351
新株予約権	1,117	26,684
純資産合計	1,685,780	1,232,036
負債純資産合計	2,177,646	1,565,644

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
売上高	2,508,773	1,937,832
売上原価	2,185,216	1,823,027
売上総利益	323,556	114,804
販売費及び一般管理費	482,273	547,630
営業損失(△)	△158,716	△432,826
営業外収益		
受取利息	103	460
事業譲渡益	8,280	—
貸倒引当金戻入額	—	16,000
その他	2,911	1,858
営業外収益合計	11,295	18,319
営業外費用		
支払利息	1,380	979
貸倒引当金繰入額	15,000	—
その他	2,791	358
営業外費用合計	19,172	1,338
経常損失(△)	△166,593	△415,845
特別利益		
事業譲渡益	—	95,000
特別利益合計	—	95,000
特別損失		
減損損失	70,371	168,011
特別損失合計	70,371	168,011
税引前四半期純損失(△)	△236,965	△488,856
法人税、住民税及び事業税	1,145	1,145
法人税等調整額	—	△10,690
法人税等合計	1,145	△9,545
四半期純損失(△)	△238,110	△479,311

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成28年 1 月 1 日 至 平成28年 6 月 30 日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成29年 1 月 1 日 至 平成29年 6 月 30 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△236,965	△488,856
減価償却費	20,683	24,211
減損損失	70,371	168,011
事業譲渡損益 (△は益)	—	△95,000
株式報酬費用	—	24,239
株式交付費	—	358
受取利息及び受取配当金	△103	△460
支払利息	1,380	979
売上債権の増減額 (△は増加)	63,752	115,532
仕入債務の増減額 (△は減少)	△18,900	15,495
未払金の増減額 (△は減少)	74,716	△12,389
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	15,000	△16,000
未払消費税等の増減額 (△は減少)	8,648	△17,372
その他の資産の増減額 (△は増加)	2,470	△53,414
その他の負債の増減額 (△は減少)	△54,621	△6,099
小計	△53,566	△340,766
利息及び配当金の受取額	△483	12
利息の支払額	△925	△617
法人税等の支払額	△1,145	△2,292
法人税等の還付額	50,042	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,077	△343,663
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△2,684	△15,810
無形固定資産の取得による支出	—	△8,602
関係会社貸付けによる支出	△15,000	—
長期貸付金の回収による収入	39,000	—
敷金及び保証金の差入による支出	△9,500	△2,000
敷金及び保証金の回収による収入	3,284	105,104
事業譲渡による収入	—	219,058
資産除去債務の履行による支出	—	△29,746
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84,899	268,003
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△131,400	△100,460
新株予約権の発行による収入	—	1,620
新株予約権の行使による株式の発行による収入	405,580	—
配当金の支払額	△80	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	274,099	△98,855
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	183,122	△174,515
現金及び現金同等物の期首残高	946,537	778,660
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,129,660	604,145

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、モバイルゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。